

「茨城歯科衛生士卒後研修会」
ICEDH

茨城県南歯科医師会 学術委員会

近年、「予防」や「介護」など歯科衛生士の活躍すべき機会が増えており、その重要度は増すばかりです。また、歯科衛生士は加療に携われる唯一のスタッフとして、数年後には今の倍増が必要とも言われています。そこで今回、歯科衛生士を中心に企画運営できる卒後研修会（ICEDH：Ibaraki Continuing Education of Dental Hygiene）を創設することになりました。知識と楽しさの共有ができる卒後研修会に育ってくれることを希望しております。創設を記念して濃厚な講演会とハンズオンコースを企画しました、特に歯科衛生士さんの参加を心よりお待ちしております。

日時：2015年3月8日（日）

スケジュール

12時30分～14時30分
ICEDHベーシックコース

- ・口腔内写真やスライド作成などの症例作成の基礎を学ぶハンズオンコース
 - ・インストラクター4名の手厚いハンズオンです
 - ・PC or MAC、デジタルカメラ貸与します
（ご自身のカメラやPCを持参しても構いません）
- 会場：けやき歯科クリニック（龍ヶ崎）
定員：8名（先着順、学生2名）
申込資格：歯科衛生士、歯科衛生専門学校生
（Drの同伴見学も可能ですが、会場の関係から予めご連絡下さい）
参加費：5000円、学生無料

15時00分～15時10分

オープニング

15時10分～17時10分

ICDH創設記念講演会&ハンズオン

- ・医療器具の再生処理（洗浄・消毒・滅菌）
- ・个人防护具の装着法（滅菌ガウン・グローブの着脱法）の実習

講師：ハート・イン歯科クリニック（東京）
歯科衛生士 服部千絵先生

会場：龍ヶ崎済生会病院 総合健診センター3Fホール
住所：〒301-0854 茨城県龍ヶ崎市中里1-1
電話：0297-63-7111

※ 龍ヶ崎済生会病院のご協力により、講演中のお子様一時預かりサービスを行える予定です。ご希望の方は一緒に申し込み下さい。

申込資格：歯科衛生士、歯科医師、歯科助手、歯科衛生専門学校生
参加費：無料

- ① 医療器具の再生処理（60分）
- ② 休憩 & 質問（10分）
- ③ 滅菌ガウン・グローブの着脱法実習（50分）

17時30分～

ICEDH創設記念パーティー&懇親会

・ 歯科衛生士の皆様は積極的に参加して下さい。今後の活動を含め、皆さんと懇親を深めれば幸いです。

会場：a-place（講演会場より車で10分）

住所：〒301-0836 茨城県龍ケ崎市寺後3471-8

電話：050-5787-0254

会費：5000円（歯科医師）

1000円（歯科衛生士、歯科助手）

無料（学生）

<申込方法> 締め切り2月21日（土）

氏名：_____

支部：_____ 支部・学校

歯科医院名：_____

職種：_____

メール：_____@_____

携帯：_____

ICEDHベーシックコース： 参加、不参加

ICEDH創設記念講演会： 参加、不参加

お子様一時預かりサービス： お子様氏名_____（ 歳）

創設記念パーティー： 参加、不参加

メール：kawai@keyaki-d.com（河合竜志／龍ケ崎）

（FAX：0297-60-8229）

歯科衛生士学校生は学校にお申し出下さい。

講師：ハート・イン歯科クリニック（東京）

歯科衛生士 服部千絵

演題

・ 医療器具の再生処理（Reproduction of surgical instrument）

・ PPE (Private preventive equipment) 個人防護具の装着法

（滅菌ガウン・グローブの着脱法）の実習

抄録：

近年の歯科医療の現場では除去外科のみならず移植外科（インプラント処置・グラフト処置等）の需要が増加し、これに伴い感染管理の重要性が高まってきている。

しかし、現状では一昨年起きた輸血時のHIVへの感染事故や昨年の歯科治療で使用する切削器具（タービンやコントラ等）の未滅菌での使い回しがメディアで取り上げられ歯科医療現場での感染管理のあり方を再度見直さなければならない状況である。

歯科という特殊な環境では医科の現場と比較して感染管理が困難で危険な状況に直面する機会も多い。

そこで、（Centers for Disease Control and Prevention: アメリカ疾病管理予防センター）CDCガイドラインをコンセンサスと考え、スタンダードプリコーションの概念に準じてスポルディングの分類を応用し、医療器具の再生処理を行う重要性について述べる。

医療器具の再生処理は正確な洗浄・消毒・滅菌を行うことで感染性物質の殺滅が可能となるので、洗浄・消毒・滅菌を行うにあたり正しい知識と作業術式を理解することが肝要である。

そこで最も重要になるのは院内のスタッフの感染管理へのコンセンサスを一致させることであり、スタッフが正しい知識と術式を共有することで患者の利益のみならず医療従事者の健康管理、ひいては安全な職場の維持に繋がるものと考えられる。

Hands-onでは医療従事者の安全を守る(Private Preventive Equipment)PPEについて説明を行い、実際に手術時の手指消毒法と滅菌ガウン・グローブの装着法を体験してもらい正しい術式を学ぶ機会にしたい。